（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-1）

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3. 出来形及び出来ばえ	**Ⅱ品質**		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。					□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。

対象工種　◆評価対象項目

01　コンクリート構造物

- □ 設計図書に基づくｺﾝｸﾘｰﾄの配合試験及び試験練りが行われており、適切なｺﾝｸﾘｰﾄの規格(強度・w／c・最大骨材粒径・塩基総量等）が確認できる。
- □ ｺﾝｸﾘｰﾄ打設時の必要な供試体を採取し、強度・ｽﾗﾝﾌﾟ・空気量等が確認できる。
- □ ｺﾝｸﾘｰﾄ供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。
- □ 施工・気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のﾊﾞｲﾌﾞﾚｰﾀの機種、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中ｺﾝ等を含む）
- □ 型枠、支保工の取り外し時のｺﾝｸﾘｰﾄ強度を適正に管理されている。
- □ 鉄筋の規格がﾐﾙｼｰﾄで確認できる。
- □ 鉄筋の引っ張り強度・曲げ強度が試験値で確認できる。
- □ ｺﾝｸﾘｰﾄ打設までの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。
- □ 鉄筋の組立・加工が適正であることが確認できる。
- □ 圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。
- □ ｽﾍﾟｰｻｰの材質が適正で、品質が確認できる。
- □ ｽﾍﾟｰｻｰを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。
- □ ｸﾗｯｸがある場合、進行性又は有害なｸﾗｯｸがなく、発生したｸﾗｯｸに対しては有識者等の意見に基づく処置を行っている。

02　土工事

- □ 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施している。
- □ 段切り等が施工前に適切に行われている。
- □ 置換えのための掘削を行うにあたり、掘削面以下を乱さないように施工している。
- □ 締固めを適切な条件で施工している。
- □ 筋芝または種子吹付等を適切に行っている。
- □ 構造物周辺の締め固め等の処理が適正に行っている。
- □ 土羽土の土質が適正である。
- □ 品質確保にかかる試験（CBR試験等）が適切に選定され、施工条件が満たされている。
- □ 法面に有害なｸﾗｯｸや損傷部がない。

03　護岸・根固・水制工事

- □ 施工基面が平滑に仕上げていることが確認できる。
- □ 裏込材、胴込めコンクリートの締固めを、空隙を生じないよう十分に行っていることが確認できる。
- □ 緑化ブロック、石積（張）、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸出しが無いよう行っていることが確認できる。
- □ 石積(張)工において、大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる。
- □ 遮水シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 根固工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結またはかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 指定材料の品質が証明書類で確認できる。
- □ 基礎工において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。
- □ コンクリートブロック等を損傷無く設置していることが確認できる。
- □ 施工にあたって、床堀箇所の湧水及び滞水等は排除して施工していることが確認できる。
- □ 埋戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 有害なクラックが無い。
- □ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ張等にｸﾗｯｸがある場合、進行性又は有害なｸﾗｯｸはなく、発生したｸﾗｯｸには適切な処置を行っている。
- □ その他理由

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　　）／評価対象項目数（　　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
評価値		50%以下	80%以下	80%を超える	
土木系	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上	＼	＼	＼	a
	80%以上90%未満	＼	＼	＼	a’
	70%以上80%未満	＼	＼	＼	b
	60%以上70%未満	＼	＼	＼	b’
	50%以上60%未満	＼	＼	＼	c
	50%未満	＼	＼	＼	d

(別表　　)

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員(品質-2)

考査項目	細別	判断例	a	a'	b	b'	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3. 出来形及び出来ばえ	**Ⅱ品質**		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注)試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。						□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		対象工種	◆評価対象項目						

04　鋼橋工事(RC床版工事はコンクリート構造物工事に準ずる)

【工場製作関係】
- □ 鋼材の種別を、品質を証明する書類又は現物により照合していることが確認できる。
- □ 溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
- □ 溶接作業にあたり、溶接材料の使用区分が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 溶接施工に係る施工計画書を提出していることが確認できる。
- □ 孔空けによって生じたまくれが削り取られているなど、きめ細やかに製作していることが確認できる。
- □ 欠陥部の発生が見られないことが確認できる。
- □ 塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。
- □ 素地調整を行う場合、第1種ケレン後4時間以内に金属前処理塗装を実施していることが確認できる。
- □ 塗料の空缶管理について、写真等で確実に空であることが確認できる。
- □ 塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。
- □ その他理由

【架設関係】
- □ ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。
- □ ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。
- □ 高力ボルトの締め付けを、中心から外側に向かって行っていることが確認できる。
- □ 高力ボルトの品質が、証明書類で確認できる。
- □ 支承の据付で、コンクリート面のチッピング及び仕上げ面に水切勾配がついていることが確認できる。
- □ 架設にあたって、部材の応力と変形等を十分検討していることが確認できる。
- □ 架設に用いる仮設備及び架設用機材について品質、性能が確保できる規模及び強度を有して確認していることが確認できる。
- □ 現場塗装部のケレン及び膜厚管理を適切に行っていることが確認できる。
- □ 現場塗装において、温度、湿度、風速等の確認を行っていることが確認できる。
- □ その他理由

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率(%)計算の値で評価する。
③評価値(　　%)＝該当項目数(　　)／評価対象項目数(　　)
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能 50%以下	ばらつきで判断可能 80%以下	ばらつきで判断可能 80%を超える	ばらつきで判断不可能
土木系	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	c	c
	60%未満	b'	c	c	c

05　砂防構造物工事及び地すべり防止工事(集水井工事を含む)

【共通】
- □ コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており､コンクリートの品質(強度･w／c､最大骨材粒径､塩化物総量､単位水量､アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。
- □ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており､温度､スランプ､空気量等の測定結果が確認できる。
- □ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が､当該現場の供試体であることが確認できる。
- □ 運搬時間､打設時の投入高さ､締固時の機種及び養生方法が､施工条件及び気象条件(寒中及び暑中ｺﾝ等を含む)に適しており､定められた条件を満足している。
- □ コンクリートの圧縮強度を管理しており､必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っている。
- □ 地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる。
- □ 鉄筋及び鋼材の品質が､証明書類で確認できる。
- □ 有害なクラックが無い。
- □ その他理由

【砂防構造物工事に適用】
- □ コンクリート打設までさび､どろ､油等の有害物が､鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
- □ 鉄筋の組立及び加工が､設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。
- □ アンカーの施工が､設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ ボルトの締付確認が実施され､記録を保管していることが確認できる。
- □ ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。
- □ その他理由

【地すべり対策工事(抑止杭･集水井戸工事を含む)】
- □ アンカーの施工が､設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ ライナープレートの組み立てにあたり､偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。
- □ ライナープレートと地山との隙間が少なくなるように施工していることが確認できる。
- □ 集･排水ボーリング工の方向及び角度が､適正となるように施工上の配慮をしていることが確認できる。
- □ その他理由

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-3）

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3．出来形及び出来ばえ	Ⅱ品質		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。					□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		対象工種	◆評価対象項目						
		06　舗装工事	下記参照						

◆評価対象項目

【路床・路盤工関係】
- □　設計図書に定められた試験方法でCBR値を測定していることが確認できる。
- □　路床及び路盤工のプルーフローリングが適切に行われ、十分な成果が確認できる。
- □　路床及び路盤工の密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □　路盤の安定処理は材料が均一になるよう施工していることが確認できる。
- □　路盤の施工に先立って、路床面、下層路盤面の浮き石及び有害物を除去してから施工していることが確認できる。
- □　路床盛土において、一層の仕上がり厚を20cm以下とし、各層ごとに締固めて施工していることが確認できる。
- □　路床盛土において、構造物の隣接箇所や狭い箇所における締固めが、タンパ等の小型締固め機械により施工していることが確認できる。
- □　その他理由

【アスファルト舗装工関係】
- □　アスファルト混合物の品質が、配合設計及び試験練りの結果又は事前審査制度の証明書類により確認できる。
- □　舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。
- □　プラント出荷時、現場到着時、舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理を記録していることが確認できる。
- □　舗設後の交通開放が、定められた条件を満足していることが確認できる。
- □　各層の継ぎ目の位置が、設計図書に定められた数値以上であることが確認できる。
- □　縦継目及び横継目の位置、構造物との接合面の処理等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □　アスファルト混合物の運搬及び舗設にあたって、気象条件を配慮していることが確認できる。
- □　密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □　その他理由

【コンクリート舗装工関係】
- □ 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りが行われており、適切なコンクリートの品質(強度・w／c・最大骨材粒
- □ 径・塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
- □ 舗装工の施工に先だって、上層路盤面の浮き石等の有害物を除去してから施工していることが確認できる。
- □ コンクリートの受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
- □ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。
- □ 運搬時間、打設・養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、設計図書に定められた条件を満足していいることが確認できる。
- □ 材料が分離しないようコンクリートを敷均していることが確認できる。
- □ チェアー及びタイバーを損傷などが発生しないよう保管していることが確認できる。

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　　）／評価対象項目数（　　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
評価値		50%以下	80%以下	80%を超える	
土木系	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上	＼	＼	＼	a
	80%以上90%未満	＼	＼	＼	a’
	70%以上80%未満	＼	＼	＼	b
	60%以上70%未満	＼	＼	＼	b’
	50%以上60%未満	＼	＼	＼	c
	50%未満	＼	＼	＼	d

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-4）

考査項目	細別	判断例	a	a'	b	b'	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ品質		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。						□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		対象工種	◆評価対象項目						
		07 法面工事	【共通】 □ 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。（特に法枠工、コンクリート又はモルタル吹付工関係） □ 施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。 □ 盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう締固めを十分行っていることが確認できる。 □ 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。 □ その他理由 【種子吹付工、客土吹付工、植生基材吹付工関係】 □ 土壌試験の結果を施工に反映していることが確認できる。 □ ネットなどの境界に隙間が生じていないことが確認できる。 □ ネットなどが破損を生じていないことが確認できる。 □ 吹付け厚さが均等であることが確認できる。 □ 使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。 □ その他理由 【コンクリート又はモルタル吹付工関係】 □ 使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 金網の重ね幅が、10cm以上確保されていることが確認できる。 □ 金網が破損を生じていないことが確認できる。 □ 吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。 □ 吹付け厚さが均等であることが確認できる。 □ 吹付け厚さに応じて2層以上に分割して施工していることが確認できる。 □ 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 □ 不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。 □ 法肩の吹付けにあたり、地山に沿って巻き込んで施工していることが確認できる。 □ その他理由 【現場打法枠工関係（プレキャスト法枠工含む）】 □ 使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ アンカーを設計図書どおりの長さで施工していることが確認できる。 □ 現場養生が、設計図書の仕様を満足するように実施されていることが確認できる。 □ 強度試験に使用したコンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 □ 枠内に空隙が無いことが確認できる。 □ 層間にはく離が無いことが確認できる。 □ 不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。 □ その他理由							

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　　）／評価対象項目数（　　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能 50%以下	80%以下	80%を超える	ばらつきで判断不可能
土木系	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	c	c
	60%未満	b'	c	c	c

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-5）

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3．出来形及び出来ばえ	**Ⅱ品質**		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。						□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。

対象工種	◆評価対象項目

08　基礎工事及び地盤改良工事

【杭関係（コンクリート・鋼管・鋼管井筒、場所打、深礎等）】

□ 杭に損傷及び補修痕が無いことが確認できる。
□ 既製杭の打止め管理の方法及び場所打杭の施工管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。
□ 杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。
□ 水平度、鉛直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。
□ 溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ 支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。
□ 場所打杭について、トレミー管をコンクリート内に2m以上挿入して施工していることが確認できる。
□ 掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度並びに比重等が、設計図書を満足していることが確認できる。
□ 配筋、スペーサーの配置及びコンクリート打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。
□ 裏込材注入の圧力などが施工記録により確認できる。
□ 強度確認、セメントミルクの比重管理などの品質に係わる事項の管理資料を整理していることが確認できる。
□ その他理由

【地盤改良関係】

□ 改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ セメントミルクの比重、スラリー噴出量、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。
□ 事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定等を行っていることが確認できる。
□ 施工箇所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。
□ その他理由

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　）／評価対象項目数（　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
土木系	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上	＼	＼	＼	a
	80%以上90%未満	＼	＼	＼	a’
	70%以上80%未満	＼	＼	＼	b
	60%以上70%未満	＼	＼	＼	b’
	50%以上60%未満	＼	＼	＼	c
	50%未満	＼	＼	＼	d

09　コンクリート橋上部工事　（PC及びRCを対象）

□ コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており､コンクリートの品質(強度,w/c,最大骨材粒径,塩化物総量,単位水量,アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
□ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□ 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□ 施工･気象条件に適した運搬時間､打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足している。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）
□ コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。
□ 鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。
□ 鉄筋の引張強度及び曲げ強度の試験値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
□ 圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
□ 鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ スペーサーの品質及び個数が、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□ プレビーム桁のプレフレクション管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ 使用する装置及び機器のキャリブレーションを事前に実施していることが確認できる。
□ PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ プレストレッシング時のコンクリート圧縮強度が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ コンクリート圧縮強度の確認は、構造物と同様な養生条件におかれた供試体を用いていることが確認できる。
□ 有害なクラックが無い。
□ その他理由

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-6）

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
3．出来形及び出来ばえ	**Ⅱ品質**		優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。

品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照>
【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】
注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　）／評価対象項目数（　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

対象工種	◆評価対象項目
10　塗装工事（工場塗装は対象としない）	□ 塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。 □ ケレンを入念に実施していることが確認できる。 □ 天候状況の確認、気温及び湿度の測定を行い、塗装作業を行っていることが確認できる。 □ 塗料を使用前に撹拌し、容器の塗料を均一な状態にしてから使用していることが確認できる。 □ 鋼材表面及び被塗装面の汚れ、油類等を除去し塗装を行っていることが確認できる。 □ 塗料の空缶管理について写真等で確実に空であることが確認できる。 □ 塗り残し、ながれ、しわ等が無く塗装されていることが確認できる。 □ 溶接部、ボルトの接合部分、構造の複雑な部分について、必要な塗膜厚を確保していることが確認できる。 □ 塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。 □ その他理由
11　トンネル工事	□ コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており､コンクリートの品質(強度,w/c,最大骨材粒径,塩化物総量,単位水量,アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。 □ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。 □ 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 □ 施工条件や気象条件に適した運搬時間､打設方法及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。 □ 吹付コンクリートの配合及びロックボルトの種別、規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 設計図書に定められた岩区分（支保工パターン含む）の境界を確認して施工を行っていることが確認できる。 □ 坑内観察調査などについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 計測管理を日々行っており、その結果に基づいた施工を行っていることが確認できる。 □ 金網の継ぎ目を15cm以上重ね合わせて施工していることが確認できる。 □ 吹付コンの施工にあたって、浮石等を除いた後に､吹付コンの一層の厚さが15cm以下で地山と密着するよう施工していることが確認できる。 □ 吹付コンクリートを打継ぎする場合は、吹付完了面を清掃した上、湿潤状態で施工していることが確認できる。 □ ロックボルトの定着長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 防水工に防水シートを使用する場合は、ロックボルト等の突起物にモルタルや保護マット等で防護対策を行っていることが確認できる。 □ 逆巻きの場合において、側壁コンクリートとアーチコンクリートの打継目が同一線上で施工していないことが確認できる。 □ その他理由
12　植栽工事	□ 活着が促されるよう管理していることが確認できる。 □ 樹木などに損傷､はちくずれ等が無いよう保護養生を行っていることが確認できる。 □ 樹木等の生育に害のある害虫等がいないことが確認できる。 □ 施工完了後、余剰枝の剪定､整形その他必要な手入れを行っていることが確認できる。 □ 肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していることが確認できる。 □ 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を堀り植穴底部を耕していることが確認できる。 □ 添木をぐらつきがないよう設置していることが確認できる。 □ 樹名板を視認しやすい場所に据付けていることが確認できる。 □ その他理由

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能 50%以下	ばらつきで判断可能 80%以下	ばらつきで判断可能 80%を超える	ばらつきで判断不可能
土木系	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上				a
	80%以上90%未満				a’
	70%以上80%未満				b
	60%以上70%未満				b’
	50%以上60%未満				c
	50%未満				d

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-7）

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。

3. 出来形及び出来ばえ

Ⅱ品質

品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照>
【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】
注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。

対象工種 ◆評価対象項目

13　防護柵（網）・標識・区画線等設置工事
- □ 防護柵設置要綱、視線誘導標設置基準、道路標識ハンドブック等の規定を満足していることが確認できる。
- □ 防護柵等の床堀りの仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。
- □ 防護柵等の基礎工の施工にあたって、無筋及び鉄筋コンクリートの規定を満足していることが確認できる。
- □ 防護柵等の支柱の施工にあたって、既設舗装面へ影響が無いよう施工していることが確認できる。
- □ 基礎設置箇所について地盤の地耐力を把握して、施工していることが確認できる。
- □ 防護柵の支柱の根入長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ ガードケーブルを支柱に取付ける場合、設計図書に定められた所定の張力を与えているのが確認できる。
- □ ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打設したコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。
- □ ペイント式(常温式)区画線に使用するシンナーの使用量が、10%以下であることが確認できる。
- □ 区画線の厚さが見本等で設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 区画線施工後の昼間及び夜間の視認性が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 区画線の施工にあたって 設置路面の水分、泥、砂じん及びほこりを取り除いて行っていることが確認できる。
- □ 区画線を消去の場合、表示材（塗料）のみの除去となっており、路面への影響が最小限となっていることが確認できる。
- □ プライマーの施工にあたって、路面に均等に塗布していることが確認できる。
- □ 区画線の材料が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ その他理由

14　電線共同溝工事
- □ 指定材料の規格が、品質を証明する書類で確認できる。
- □ 管路の通過試験を行っており、試験結果から全箇所が導通していることが確認できる。
- □ プラント出荷時、現場到着時、舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理が記録していることが確認できる。
- □ 特殊部の施工基面の支持力が、均等となるようにかつ不陸が無いように仕上げていることが確認できる。
- □ 特殊部等の施工において、隣接する各ブロックに目違いによる段差及び蛇行等が無いよう敷設していることが確認できる。
- □ 埋戻しにおいて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 舗装の復旧等が適時行われ、路面の沈下や不陸が無く平坦性を確保していることが確認できる。
- □ 管枕及び埋設シートの設置及び土被りが、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 管設置において、それぞれの管の最小曲げ半径を満足していることが確認できる。
- □ その他理由

15　維持工事（清掃工、除草工、付属物工、除雪、応急処理等）
- □ 使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を適宜・的確に行っていることが確認できる。
- □ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。
- □ 監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
- □ 緊急的な作業において、迅速かつ適切に対応していることが確認できる。
- □ その他理由
- □ 　　理由
- □ 　　理由
- □ 　　理由
- □ 　　理由

16　維持修繕工事（橋脚補強、耐震補強、落橋防止等）
- □ 使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を適宜・的確に行っていることが確認できる。
- □ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。
- □ 監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
- □ 施工後のメンテナンスに対する提言や修繕サイクル等を勘案した提案等を行っていることが確認できる。
- □ その他理由
- □ 　　理由
- □ 　　理由
- □ 　　理由
- □ 　　理由

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　）／評価対象項目数（　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能 50%以下	ばらつきで判断可能 80%以下	ばらつきで判断可能 80%を超える	ばらつきで判断不可能
土木系	90%以上	a	a’	b	b
土木系	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
土木系	60%以上75%未満	b	b’	c	c
土木系	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上				a
営繕系	80%以上90%未満				a’
営繕系	70%以上80%未満				b
営繕系	60%以上70%未満				b’
営繕系	50%以上60%未満				c
営繕系	50%未満				d

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-8）

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。

3. 出来形及び出来ばえ

Ⅱ品質

品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照>
【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】
注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。

対象工種　◆評価対象項目

17　機械設備工事

- □ 材料、部品の品質照合の書類（現物照合）を整理し品質の確認ができる。
- □ 設備の機能及び性能が、承諾図書のとおり確保され、品質の確認ができる。
- □ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出していることが確認できる。
- □ 機器の機能及び性能に係わる成績書が整理され、品質の確認ができる。
- □ 溶接管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。
- □ 塗装管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。
- □ 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性にすぐれていることが確認できる。
- □ 操作制御設備の安全装置及び保護装置の機能・性能確認試験について、試験書類を整理し品質の確認ができる。
- □ 小配管、電気配線、配管が承諾図書のとおり敷設していることが確認できる。
- □ 設備の取扱説明書を工夫していることが確認できる。
- □ 完成図書（取扱説明書）に部品等の点検及び交換方法について、まとめていることが確認できる。
- □ 機器の配置が点検しやすいよう工夫していることが確認できる。
- □ 設備の構造や機器の配置が、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易にできるよう工夫していることが確認できる。
- □ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめていることが確認できる。
- □ バルブ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示していることが確認できる。
- □ 計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示していることが確認できる。
- □ 回転部や高温部等の危険箇所に表示又は防護をしていることが確認できる。
- □ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。
- □ 現地状況を勘案し、施工方法等についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
- □ その他理由

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　　）／評価対象項目数（　　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能 50%以下	ばらつきで判断可能 80%以下	ばらつきで判断可能 80%を超える	ばらつきで判断不可能
土木系	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上				a
	80%以上90%未満				a’
	70%以上80%未満				b
	60%以上70%未満				b’
	50%以上60%未満				c
	50%未満				d

18　電気設備工事

- □ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討が実施していることが確認できる。
- □ 材料・部品の品質照合の結果が品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられていることが確認できる。
- □ 操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れていることが確認できる。
- □ ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無いことが確認できる。
- □ 設備の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 操作制御関係の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動が確認できる。
- □ 設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 現場条件によって機器(製品)の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認していることが確認できる。
- □ 設備全体についての取扱説明書を工夫し作成（修繕（改造・更新含む）の場合は、修正又は更新）していることが確認できる。
- □ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。
- □ 設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。
- □ その他理由

19　通信設備工事・受変電設備工事

- □ 設計図書に定められている品質管理を実施していることが確認できる。
- □ 材料及び構成部品の品質及び形状について、設計図書等と適合が確認できる証明書等を整備していることが確認できる。
- □ 材料の品質照合の結果が、品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ 設備、機器の品質、機能及び性能が、成績等で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- □ ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無いことが確認できる。
- □ 設備全体としての運転性能が所定の能力を満足していることが確認できる。
- □ 完成図書において、設備の機能並びに性能及び操作方法が容易に判別できる資料を整備していることが確認できる。
- □ 完成図書において、単体品の製造年月日及び製造者が判別できる資料を整備していることが確認できる。
- □ 設備全体及び各機器において、設計図書に規定した品質及び性能を工場試験記録により確認できる。
- □ 設備全体についての取扱説明書を工夫していることが確認できる。
- □ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。
- □ 設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。
- □ その他理由

(別表　　)

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員(品質-9)

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3. 出来形及び出来ばえ	**Ⅱ品質**		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注)試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。						□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		対象工種	◆評価対象項目						
		20　上記以外の工事　又は合併工事	※　最大7項目とする □　理由: □　理由: □　理由: □　理由: □　理由: □　理由: □　理由: □　理由:						
		21　下水道工事	【 共　通 】 □　材料の品質及び形状が設計図書等との適切性確認ができ、証明書が整備されている。 □　設計図書に基づくｺﾝｸﾘｰﾄの配合試験及び試験練りが行われており、適切なｺﾝｸﾘｰﾄの規格(強度・W/C・最大骨材粒径・塩基総量等)が確認できる。 □　ｺﾝｸﾘｰﾄ打設時の必要な供試体を採取し、強度・ｽﾗﾝﾌﾟ・空気量等が確認できる。 □　ｺﾝｸﾘｰﾄ供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 □　施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時の機種、養生方法等、適切に行っている(寒中及び暑中ｺﾝｸﾘｰﾄ等含む)。 □ その他 【開削工】 □　締固めを適切な条件で施工しており、管の周辺に空隙が生じていない。 □　混合物の温度管理が、ﾌﾟﾗﾝﾄ出荷時・現場到着時・舗設時等で整理・記録されている。 【推進工】 □　測量及び観測結果を毎日整理し、それに基づいた施工が行われていることが確認できる。 □　常に切羽及び地表面の状態を観察して施工されていることが確認できる。 【ｼｰﾙﾄﾞ工】 □　鋼材の員数照合がﾐﾙｼｰﾄ等(現物照合を含む)で確認されている。 □　溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 □　二次ｺﾝｸﾘｰﾄ打設前に、付着物除去のための充分な水洗清掃を行っていることが確認できる。 □　常に切羽及び地表面の状態を観察して施工されていることが確認できる。						
		22　森林整備工事	【 共　通 】 □　施工の時期、位置、方法等が適正である。 □　施工むらが無く均等に施工されている。 □　残存木を傷めないよう施工されている。 □　工種の目的が達成されるよう施工されている。 【間伐、本数調整伐】 □　切り口が平滑に仕上げられている。 □　適切に施工され、規格値を満足している。 □　伐倒木を傷めないよう搬出又は林内整理されている。 【枝落とし】 □　切り口が平滑に仕上げられている。 □　適切に施工され、規格値を満足している。						

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率(%)計算の値で評価する。
③評価値(　　%)＝該当項目数(　　　)／評価対象項目数(　　　)
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能 50%以下	ばらつきで判断可能 80%以下	ばらつきで判断可能 80%を超える	ばらつきで判断不可能
土木系	90%以上	a	a’	b	b
土木系	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
土木系	60%以上75%未満	b	b’	c	c
土木系	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上				a
営繕系	80%以上90%未満				a’
営繕系	70%以上80%未満				b
営繕系	60%以上70%未満				b’
営繕系	50%以上60%未満				c
営繕系	50%未満				d

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-10）

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3. 出来形及び出来ばえ	**Ⅱ品質**		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。						□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。

対象工種 ◆評価対象項目

23 ほ場整備工事

【 共 通 】
- □ 付帯構造物コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。

【用排水路工】
- □ 施工基面が平滑に仕上げられている。
- □ ｽﾃｯﾌﾟ面の不陸がなく埋め戻し部の締固めが適切な条件で施工されている。
- □ 2次製品等の本体に損傷がなく目地、接合部についても適切に施工されている。

【農道工】
- □ 盛土締固めが仕様書に示す条件により適切に施工されている。
- □ 土羽土の土質が適正で法面施工は良好に実施され、法面浸食も認められない。

【整地工、畦畔工】
- □ 基盤整地、仕上整地が適切に施工され田面が平滑に仕上がり、水溜まり、ぬかるみ等が見受けられない。
- □ 畦畔盛土において締固め、土羽整形が適切に施工されている。

24 管水路工事

- □ 仕様書等で定められている品質管理が実施されている。
- □ 材料の品質規定証明書が整備されている。
- □ 中心線の通りがよい。
- □ 仕様書等で示す条件により締め固めが実施されている。
- □ 管の両端が均等に埋め戻されていることが確認できる。
- □ 地盤面、基礎面に不陸が生じていないことが確認できる。
- □ 管の吊り込み、据付の際に常に十分な注意を払っていることが確認できる。
- □ ｺﾝｸﾘｰﾄ構造物にきめ細かな施工がうかがえる。

25 ｺﾝｸﾘｰﾄ2次製品水路(U字溝、BF等付帯的なものは除く)L型・BOXｶﾙﾊﾞｰﾄ・ﾌﾞﾛｯｸ積

【 共 通 】
- □ 仕様書等で定められている品質管理・材料の品質規定証明書等の整備が実施されている。
- □ JIS規格外品について、仕様書で規定する規格・品質を満足している。
- □ 基礎地盤の整形・清掃・湧水処理等が適切に実施されていることや、不等沈下防止に配慮しての締固めが入念に行われていることが確認できる。
- □ 二次製品の保管、吊り込み、据付け等に十分な注意を払っていることが確認できる。
- □ 材料の連結・かみ合わせが適切であり、製品の継ぎ目部には隙間・ｽﾞﾚもなく施工されている。

【 擁壁類［補強土壁は除く］】
- □ 胴込ｺﾝｸﾘｰﾄ・裏込材の充填が十分で、空隙が生じていない。
- □ 基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ及び天端等の調整ｺﾝｸﾘｰﾄにｸﾗｯｸ等の欠陥がない。
- □ 端部における地山とのすりつけが適切である。
- □ 丁張りを二重、三重に設けるなど、法勾配・裏込材の厚さの確保のため細心の注意を払っている。
- □ ｺﾝｸﾘｰﾄ板擁壁工の施工にあたり、ｿｲﾙｺﾝｸﾘｰﾄの配合・練混ぜ・打込み・締固め及び養生が適切に行われている。

【 用排水施設 】
- □ 位置・方向・高さ・勾配等について、前後の施設又は地形になじみよく施工されている。
- □ 呑口・吐口・集水桝等の取付けｺﾝｸﾘｰﾄにｸﾗｯｸ等の欠陥がない。
- □ 施設の流末は浸食・滞留等が生じないよう処理されている。
- □ 不等沈下の発生がなく、基礎ｺﾝｸﾘｰﾄの亀裂や継目部からの漏水も見られない。
- □ 継目部の目地ﾓﾙﾀﾙが適切に施工されている。
- □ 製品周辺の盛土・埋戻し土の施工にあたり、巻出し・転圧が適切に施工されている。

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　　）／評価対象項目数（　　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能 50%以下	ばらつきで判断可能 80%以下	ばらつきで判断可能 80%を超える	ばらつきで判断不可能
土木系	90%以上	a	a’	b	b
土木系	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
土木系	60%以上75%未満	b	b’	c	c
土木系	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上				a
営繕系	80%以上90%未満				a’
営繕系	70%以上80%未満				b
営繕系	60%以上70%未満				b’
営繕系	50%以上60%未満				c
営繕系	50%未満				d

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-11）

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3．出来形及び出来ばえ	**Ⅱ品質**		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。					□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		対象工種	◆評価対象項目						
		26　補強土壁工事	□　盛土材料の土質が適正である。 □　盛土の締固めを適切な条件（人力機械別、巻き出し厚・敷均し・転圧作業等）で施工されている。 □　プレキャスト製品・材料等の品質が工場管理資料により的確に確認できる。 □　現場条件に応じた排水対策が施工時を含め適切に講じられている。 □　盛土の締固め管理（密度等）が適切に実施されていることが確認できる。 □ その他理由 □　　　理由 □　　　理由						
		27　取り壊し工事	□　分別、再資源化を適切に実施している。 □　施工計画書に定められた計画により管理されている。 □　廃棄物の処理が適切である。 □　請負者の管理記録が整理されている。 □　不可視部分の写真記録が適正である。 □ その他理由 □　　　理由 □　　　理由						
		28　共同溝シールド工事	□　作業残土の処理が、資料により、確実に実施されていることを確認できる。 □　裏込め注入について注入量・注入圧力の管理・記録が適切になされている。 □　シールド設備工（坑内外）については、的確に実施されている。 □　セグメントの品質が、工場管理資料より的確に確認できる。 □　シールド機については、当現場条件を的確に反映し製作されている。 □ その他理由 □　　　理由 □　　　理由						
		29　仮設工事	□　仮設材にそり、ゆがみ、傷がない。 □　仮設材の組立・設置が確実になされ、かつ点検も行われている。 □　周辺環境（騒音・振動・地盤変動等）に配慮した施工方法で実施している。 □　施工記録等により設計条件に適合した根入れ長で施工されていることが確認できる。 □　排水を考慮し、良好な床付面を確保している。 □ その他理由 □　　　理由 □　　　理由						

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　　）／評価対象項目数（　　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能 50%以下	ばらつきで判断可能 80%以下	ばらつきで判断可能 80%を超える	ばらつきで判断不可能
土木系	90%以上	a	a’	b	b
土木系	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
土木系	60%以上75%未満	b	b’	c	c
土木系	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上				a
営繕系	80%以上90%未満				a’
営繕系	70%以上80%未満				b
営繕系	60%以上70%未満				b’
営繕系	50%以上60%未満				c
営繕系	50%未満				d

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（品質-12）

考査項目	細別	判断例	a	a’	b	b’	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3．出来形及び出来ばえ	Ⅱ品質		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。						□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。

対象工種　◆評価対象項目

30　営繕（建築）工事

□ 材料・製品の品質が、承諾図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。
□ 施工の各段階における完了時の試験方法及び記録の方法が、適切であることが確認できる。
□ 材料の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。
□ 品質の確認結果が分かりやすく整理されていることが確認できる。設計図書を満足し、適切な施工である。
□ 施工の品質が、適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。
□ 建具、ユニット等の性能及び機能に関する確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足している。
□ 躯体工事における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
□ 内外仕上げ工事における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
□ その他の工事（躯体・内装仕上げを除く）における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
□ 不可視部分の品質が工事写真、施工記録により確認できる。
□ 中間検査や既済検査での創意工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。
□ その他理由

①当該『評価対象項目』のうち、対象としない項目は選定しない。
②選定した評価項目数を分母として計算した比率（%）計算の値で評価する。
③評価値（　　%）＝該当項目数（　　　）／評価対象項目数（　　　）
④なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

● 判断基準

	評価値	ばらつきで判断可能 50%以下	ばらつきで判断可能 80%以下	ばらつきで判断可能 80%を超える	ばらつきで判断不可能
土木系	90%以上	a	a’	b	b
土木系	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
土木系	60%以上75%未満	b	b’	c	c
土木系	60%未満	b’	c	c	c
営繕系	90%以上				a
営繕系	80%以上90%未満				a’
営繕系	70%以上80%未満				b
営繕系	60%以上70%未満				b’
営繕系	50%以上60%未満				c
営繕系	50%未満				d

31　営繕（電気・電気通信設備及び暖冷房衛生・機械設備）工事

□ 機材の品質が、承諾図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。
□ 施工の各段階における完了時の試験方法及び記録の方法が、適切であることが確認できる。
□ 機材の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。。
□ 品質の確認結果が分かりやすく整理されていることが確認できる。設計図書を満足し、適切な施工である。
□ 施工の品質が、適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。
□ 施工の品質が、試験や検査等の結果の記録により、優れていることが確認できる。
□ システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法等が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していることが確認できる。
□ システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法に工夫がある。
□ 不可視部分となる品質が、工事写真、施工記録により確認できる。
□ 中間検査や既済検査での創意工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。
□ 運転・点検上の表示及び危険箇所などの表示等が明確で解りやすい。
□ その他理由

32　小規模工事

□　使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を行っていることが確認できる。
□　材料の品質照合の書類（現物照合）を整理し品質の確認ができる。
□　現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。
□　施工箇所以外の部分に損傷を与えないよう工夫していることが確認できる。
□　施工条件や気象条件を考慮して施工したことが確認できる。
□　緊急的な作業に対応できる体制を整えていたことが確認できる。
□　施工時期や施工場所について地域や環境への配慮をしたことが確認できる。
□　ｺﾝｸﾘｰﾄ配合試験及び試験練りを行い、ｺﾝｸﾘｰﾄの品質（強度、w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、ｱﾙｶﾘ骨材反応抑制等）が確認できる。
□　鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。
□　鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□　コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□　アスファルト混合物の品質が、配合設計及び試験練りの結果又は事前審査制度の証明書類により確認できる。
□　施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。
□　雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。
□　床堀箇所の湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。
□　締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□　CBR試験などの品質管理に必要な試験を行っていることが確認できる。
□　掘削箇所において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。
□　コンクリートブロック等を損傷無く設置していることが確認できる。
□　鋼材の品質が、証明書類で確認できる。
□　二次製品の品質照合の書類（現物照合）が整理されており、設計図書で指定する品質を満足していることが確認できる。
□　対象物に有害なクラック、損傷が無い。
□　水平度、鉛直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。
□ その他理由

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表
検査員（品質-13）

考査項目	細別	判断例	a	a'	b	b'	c	d	e
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ品質		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。<判断基準参照> 【関連基準、土木施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 注）試験結果の打点数等が少なくバラツキの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。					□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
		対象工種	◆評価対象項目						
複合工種等への対応									

複合工種等への対応

「3. 出来形及び出来ばえ」Ⅱ. 品質　Ⅲ. 出来ばえの評定において工種を選択することができる。
最大3工種までとし、主たる工種のみで評価するか、工事比率（設計ﾍﾞｰｽの直接工事費の比率や重要度で勘案する。
で工種ごとに配分する。
ⅠとⅡの項目においては同一工種の選択とする。

配分による評価例

Ⅱ. 品質の例	①各品質の評価	②該当点数	③直工費配分	②×③
工種A	a	15	0.4	6
工種B	b	7.5	0.3	2.25
工種C	a'	12	0.3	3.6
計				11.85

⇒⇒ 評定判定表から
12点から7.5点の範囲

判定は
b（特に良好である。）となる。

加点は11.85点（小数点は第3位を四捨五入）となる

配分による評価例

Ⅲ. 出来ばえの例	①各出来ばえの評価	②該当点数	③直工費配分	②×③
工種A	b	2.5	0.6	1.5
工種B	c	0	0.3	0
工種C	c	0	0.1	0
計				1.5

⇒⇒ 評定判定表から
2.5点から0点の範囲

判定は
b（やや優れている）となる。

加点は1.5点（小数点は第3位を四捨五入）となる

通常の評定判定表
品質　評価値により配点

特に優れている。	a	15点
優れている。	a'	12点
特に良好である。	b	7.5点
良好である。	b'	4点
適切である。	c	0点
やや不適切である。	d	-12.5点
不適切である。	e	-25点

複合工事費按分時の評定判定表
品質　按分配点により評価

特に優れている。	a	15点
優れている。	a'	15点未満12点以上
特に良好である。	b	12点未満7.5点以上
良好である。	b'	7.5点未満4点以上
適切である。	c	4点未満0点以上
やや不適切である。	d	-12.5点まで
不適切である。	e	-25点まで

出来ばえ　評価値により配点

優れている。	a	4点
やや優れている。	b	2.5点
他の評価に該当しない。	c	0点
劣っている。	d	-5点

出来ばえ　按分配点により評価

優れている。	a	2.5点以上
やや優れている。	b	2.5点未満0点以上
他の評価に該当しない。	c	0点の場合のみ
劣っている。	d	0点以下

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（出来ばえ-14）

考査項目	細別	判断例	a	b	c	d
3. 出来形及び出来ばえ	**Ⅲ出来ばえ**		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象工種	◆評価対象項目
01 コンクリート構造物	□ コンクリート構造物の肌が良い。（アバタ等が見られずツヤがある、または補修跡がない） □ コンクリート構造物の通りが良い。（カドの施工や欠け防止等への配慮が優れている） □ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。（骨材が見られず、平滑な仕上がりが確認できる） □ クラックがない。（有害なクラックがない、収縮に対するクラック防止等への配慮が良好である） □ 漏水がない。（セパ穴や施工継目等の処理が良好である） □ 全体的な美観が良い。 □ その他理由
02 土工事	〈盛土・築堤工事等〉 □ 仕上げが良い。（客土等の処理状況に配慮が見られる、地表面に流れ出した跡やクラックが見られない） □ 通りが良い。（法面等の勾配が均一である、断面変化部等の処理に配慮が見られる） □ 端部処理がよい。（工区端部の仕上りに次施工への配慮が伺える、盛りこぼし等の材料が残っていない） □ 構造物へのすり付け等がよい。（沈下が見られたり、クラック等が見られない） □ 全体的な美観がよい。 〈切土工事等〉 □ 規定された勾配が確保されている。 □ 法面の浮石除去等、表面が適切に施工されている。 □ 法面勾配の変化部（地山との境界も含む）には、干渉部等を設け、適切に施工されている。 □ 施工面の木根部等が確実に施工されている。 □ 施工面には、滞水防止等の処理が適切に行われている。 □ 関係構造物等との取り合いが適切に行われている。 □ 残土等は適切に処理されている。 【共通】 □ その他理由
03 護岸・根固・水制工事	□ 通りが良い。 □ 材料のかみ合わせがよく、クラックが無い。 □ 天端及び端部の仕上げがよい。 □ 既設構造物へのすり付けがよい。 □ 全体的な美観がよい。 □ その他理由
04 鋼橋工事（RC床版工事はコンクリート構造物工事に準ずる）	□ 表面に補修箇所が無い。 □ 部材表面に傷及び錆が無い。 □ 溶接に均一性がある。 □ 塗装に均一性がある。 □ 全体的な美観が良い。 □ その他理由

●判断基準

土木系

※ 対象項目は3個以上とする。

対象項目数	該当評価項目数 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	d	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a
9	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a	
8	d	d	d	d	d	c	b	a	a		
7	d	d	d	d	c	b	a	a			
6	d	d	d	c	b	a	a				
5	d	d	c	b	a	a					
4	d	c	b	a	a						
3	c	b	a	a							

営繕系

該当項目が	90%以上	a
該当項目が	80%以上90%未満	b
該当項目が	80%未満	c
該当項目が	2項目以下	c

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（出来ばえ-15）

考査項目	細別	判断例	a	b	c	d
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象工種	◆評価対象項目
05 砂防構造物工事及び地すべり防止工事（集水井工事を含む）	【共通】 □【砂防構造物工事に適用】 □ コンクリート構造物の表面状態が良い。 □ コンクリート構造物の通りが良い。 □ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 □ クラックが無い。 □ 漏水が無い。 □ 全体的な美観が良い。 【地すべり対策工事（抑止杭・集水井戸工事を含む）】 □ 地山との取り合いが良い。 □ 天端、端部の仕上げが良い。 □ 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 □ 全体的な美観が良い。 【共通】 □その他理由
06 舗装工事	□ 舗装の平坦性が良い。 □ 構造物の通りが良い。 □ 端部処理が良い。 □ 構造物へのすりつけ等が良い。 □ 雨水処理が良い。 □ 全体的な美観が良い。 □ その他理由
07 法面工事	□ 通りが良い。 □ 植生、吹付等の状態が均一である。 □ 端部処理が良い。 □ 全体的な美観が良い。 □ その他理由
08 基礎工事及び地盤改良工事	□ 土工関係の仕上げが良い。 □ 通りが良い。 □ 端部及び天端の仕上げが良い。 □ 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 ※ 地盤改良はc評価となるよう入力する。 □ その他理由

●判断基準

土木系

※ 対象項目は3個以上とする。

対象項目数	該当評価項目数 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	d	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a
9	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a	
8	d	d	d	d	d	c	b	a	a		
7	d	d	d	d	c	b	a	a			
6	d	d	d	c	b	a	a				
5	d	d	c	b	a	a					
4	d	c	b	a	a						
3	c	b	a	a							

営繕系

該当項目が	90%以上	a
該当項目が	80%以上90%未満	b
該当項目が	80%未満	c
該当項目が	2項目以下	c

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（出来ばえ−16）

考査項目	細別	判断例	a	b	c	d
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象工種	◆評価対象項目
09 コンクリート橋上部工事 （PC及びRCを対象）	□ コンクリート構造物の表面状態が良い。 □ コンクリート構造物の通りが良い。 □ 天端及び端部の仕上げが良い。 □ 支承部の仕上げが良い。 □ クラックが無い。 □ 全体的な美観が良い。 □ その他理由
10 塗装工事（工場塗装は対象としない）	□ 塗装の均一性が良い。 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 □ 補修箇所が無い。 □ ケレンの施工状況が良好である。 □ 全体的な美観が良い。 □ その他理由
11 トンネル工事	□ コンクリート構造物の肌が良い。 □ コンクリート構造物の通りが良い。 □ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 □ クラックがない。 □ 漏水がない。 □ 全体的な美観が良い。 □ その他理由
12 植栽工事	□ 樹木の活着状況が良い。 □ 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 □ 支柱の取り付けが堅固である。 □ 全体的な美観が良い。 □ その他理由

●判断基準

土木系

※ 対象項目は3個以上とする。

対象項目数	該当評価項目数 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	d	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a
9	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a	
8	d	d	d	d	d	c	b	a	a		
7	d	d	d	d	c	b	a	a			
6	d	d	d	c	b	a	a				
5	d	d	c	b	a	a					
4	d	c	b	a	a						
3	c	b	a	a							

営繕系

該当項目が	90%以上	a
該当項目が	80%以上90%未満	b
該当項目が	80%未満	c
該当項目が	2項目以下	c

(別表　　)

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員(出来ばえ-17)

考査項目	細別	判断例	a	b	c	d
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
		対象工種	◆評価対象項目			

13　防護柵(網)・標識・区画線等設置工事

【防護柵(網)】
- □　通りが良い。
- □　端部処理が良い。
- □　部材表面に傷及び錆が無い。
- □　既設構造物等とのすりつけが良い。
- □　きめ細やかに施工されている。
- □　全体的な美観が良い。

【標識】
- □　設置位置に配慮がある。
- □　標識板の向き並びに角度及びその支柱の通りが良い。
- □　標識板の支柱に変色が無い。
- □　支柱基礎が入念に埋め戻されている。
- □　全体的な美観が良い。

【区画線工】
- □　塗料の塗布が均一である。
- □　視認性が良い。
- □　接着状態が良い。
- □　施工前の清掃が入念に実施されている。
- □　全体的な美観が良い。

【共通】
- □その他理由

●判断基準

土木系

※　対象項目は3個以上とする。

対象項目数	該当評価項目数 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	d	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a
9	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a	
8	d	d	d	d	d	c	b	a	a		
7	d	d	d	d	c	b	a	a			
6	d	d	d	c	b	a	a				
5	d	d	c	b	a	a					
4	d	c	b	a	a						
3	c	b	a	a							

営繕系

該当項目が	90%以上	a
該当項目が	80%以上90%未満	b
該当項目が	80%未満	c
該当項目が	2項目以下	c

14　電線共同溝工事
- □　歩道及び車道の舗装(含、仮復旧舗装)の勾配が適切で、有害な段差が無く平坦性が確保されている。
- □　ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸの蓋に、がたつきや不要な隙間が生じていない。
- □　施工管理記録などから、不可視部分の出来映えの良さが伺える。
- □　全体的な美観が良い。
- □ その他理由

15　維持工事(清掃工、除草工、付属物工、除雪、応急処理等)
- □　小構造物等にも注意が払われている。
- □　きめ細かな施工がなされている。
- □　既設構造物とのすりつけが良い。
- □　全体的な美観が良い。
- □ その他理由

16　維持修繕工事(橋脚補強、耐震補強、落橋防止等)
- □　小構造物等にも注意が払われている。
- □　きめ細かな施工がなされている。
- □　既設構造物とのすりつけが良い。
- □　全体的な美観が良い。
- □ その他理由

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（出来ばえ−18）

考査項目	細別	判断例	a	b	c	d
3．出来形及び出来ばえ			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
	Ⅲ出来ばえ					

対象工種	◆評価対象項目
17　機械設備工事	□　主設備、関連設備及び操作制御設備が全体的に統制されており、運転操作性が良い。 □　きめ細かな施工がなされている。 □　土木構造物、既設設備等とのすりつけが良い。 □　溶接、塗装、組立等にあたって、細部に渡る配慮がなされている。 □　全体的な美観が良い。 □ その他理由
18　電気設備工事	□　きめ細やかな施工がなされている。 □　公共物として、安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。 □　動作状態において、電気的及び機械的な異常が無く、総合的な機能及び運用性が良い。 □　ケーブル等の接続方法及び収納状況が適切である。 □　操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 □　全体的な美観が良い。 □ その他理由
19　通信設備工事･受変電設備工事	□　主設備、関連設備等にきめ細かな施工がされている。 □　公共物として、安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。 □　動作状態において、電気的及び機械的な異常が無く、総合的な機能や運用性が良い。 □　当該設備及び関連設備が全体的に協調及び統制され、総合的な性能向上への配慮がなされている。 □　操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 □　全体的な美観が良い。 □ その他理由
20　上記以外の工事　又は合併工事	□　　　理由： □　　　理由： □　　　理由： □　　　理由： □　　　理由： ※ 該当工種からの評価対象項目で評価を行う。ただし、評価対象項目は最大5項目とする。
21　下水道工事	□　全体を通じ管通りが良い。 □　漏水がない。（ﾏﾝﾎｰﾙと管の接合や、ﾏﾝﾎｰﾙのｼﾞｮｲﾝﾄ部分等　総合的に判断する。） □　ｸﾗｯｸがない。（有害なｸﾗｯｸを除き、施工上の管理不足により発生したｸﾗｯｸを対象とする。） □　ﾏﾝﾎｰﾙ天端と路面とのすりつけが良い。 □　残土等は適切に処理されている。 □ その他理由

●判断基準

土木系

※　対象項目は3個以上とする。

対象項目数	該当評価項目数 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	d	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a
9	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a	
8	d	d	d	d	d	c	b	a	a		
7	d	d	d	d	c	b	a	a			
6	d	d	d	c	b	a	a				
5	d	d	c	b	a	a					
4	d	c	b	a	a						
3	c	b	a	a							

営繕系

該当項目が	90%以上	a
該当項目が	80%以上90%未満	b
該当項目が	80%未満	c
該当項目が	2項目以下	c

（別表　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（出来ばえ−19）

考査項目	細別	判断例	a	b	c	d
3．出来形及び出来ばえ	Ⅲ出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

対象工種	◆評価対象項目
22　森林整備工事	□　安全性に留意した仕上げがされている。 □　施工むらや偏りが無く適正である。 □　施工位置等が適正で、目的に合致した統一感がある。 □　細部にわたり、きめ細やかな作業がなされている。 □　林内が整理されており、歩きやすい。 □　林内が明るく全体的な見映えがよい。 □ その他理由
23　ほ場整備工事	□　ほ場面の均平仕上げが良い。 □　畦畔の通り、法面、小段の仕上げが良い。 □　用排水路の通りが良い。 □　用排水路の接続、付帯構造物との取り合わせが適切である。 □　道路仕上げ面の不陸がなく又、路肩の通りが良い。 □　全体的な美観が良い。 □ その他理由
24　管水路工事	□　管の通りがよい。（目視できない場合は、工事管理写真により施工上の通りが確認できる。） □　管内面塗装に補修痕等がない。 □　小構造物（弁室やﾏﾝﾎｰﾙ等）にも細心の注意が払われている。（設置に傾きや欠損等がない） □　異形管や特殊管の接合が確認できる。 □　付属施設（仕切弁や空気弁など）の設置に細心の注意が払われている。 □　埋戻し状態が良好である。 □　全体的な美観がよい。
25　ｺﾝｸﾘｰﾄ2次製品水路(U字溝、BF等付帯的なものは除く)L型・BOXｶﾙﾊﾞｰﾄ・ﾌﾞﾛｯｸ積	□　土工の仕上げがよい。（不可視部分の転圧等の施工状態を含む） □　土工の構造物等へのすりつけがよい。（通りがよく、丁寧な施工が確認できる。） □　構造物に欠損や補修跡（丁寧に施工され目立たないものは対象としない）がない。 □　コンクリート構造物の通りがよい。（施工上屈折等が生じたもの等は計画に対して判断する。） □　天端仕上げ、端部仕上げ等がよい。（関連工事部分の仕上りを含む。） □　製品同士の接続部分（現場打ち部分や目地等）に適切な処理が確認できる。 □　付帯の施設の施工がよい。（蓋等にガタツキ等がないことや排水側溝、フェンス等の通りがよいなど） □　全体的な美観がよい。 □ その他理由

●判断基準

土木系

※　対象項目は3個以上とする。

対象項目数	該当評価項目数 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	d	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a
9	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a	
8	d	d	d	d	d	c	b	a	a		
7	d	d	d	d	c	b	a	a			
6	d	d	d	c	b	a	a				
5	d	d	c	b	a	a					
4	d	c	b	a	a						
3	c	b	a	a							

営繕系

該当項目が	90%以上	a
該当項目が	80%以上90%未満	b
該当項目が	80%未満	c
該当項目が	2項目以下	c

（別表　　　）

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（出来ばえ-20）

考査項目	細別	判断例	a	b	c	d
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ出来ばえ		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
		対象工種	◆評価対象項目			
		26　補強土壁工事	□　壁面材（コンクリート製品）の割れ・カケがなく、かつ補修跡がない。 □　基礎上面の平坦性が確認でき（写真の状態で判断する）仕上がりが良い。 □　天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 □　壁面材の目違い、段差が少なく構造物の通りが良い。 □　全体的な美観が良い。 □ その他理由			
		27　取り壊し工事	□　散水によるホコリ抑え等がなされ、現場や周辺の環境保全に努めている。 □　仮設等が適正に行われ、安全管理・防災に努め、きめ細かな施工がされている。 □　既存部分や関連設備との調整がなされている。 □　取壊し後の整地等仕上がりの状態が良好である。 □　工事完了時のみならず、工事の着手前、工事中の適期に、運搬状況・排出先の確認が積極的になされている。 □ その他理由			
		28　共同溝シールド工事	□　RCセグメントの割れ・カケがない。 □　継手面の防水が確実になされている。 □　セグメント間の目違い、段差が少ない。 □　ボルトの締め付け状況がよい。 □　全体的な美観が良い。 □ その他理由			
		29　仮設工事	□　鋼矢板、親杭の通りが良い。 □　覆工板にがたつきがない。 □　鋼矢板のかみ合わせ等に不良部分がない。 □　床付け面の仕上げがよい。 □　全体的な美観が良い。 □ その他理由			
		30　営繕（建築）工事	□ きめ細やかな施工がなされ、取り合いの納まりや端部まで仕上がりが良い。 □ 関連工事（工種）又は既存部分との調整がなされ、全体に調和が良い仕上がりである。 □ 使い勝手や使用者の安全に対する配慮が適切である。 □ 仕上がりの状態が良好で、色調が均一であり、色むら等が無い □ 全体的な美観が良好である。 □ 保全に配慮した施工がなされている。 □ その他理由 □　　　　理由 □　　　　理由			

●判断基準

土木系

※　対象項目は3個以上とする。

対象項目数	該当評価項目数 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	d	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a
9	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a	
8	d	d	d	d	d	c	b	a	a		
7	d	d	d	d	c	b	a	a			
6	d	d	d	c	b	a	a				
5	d	d	c	b	a	a					
4	d	c	b	a	a						
3	c	b	a	a							

営繕系

該当項目が	90%以上	a
該当項目が	80%以上90%未満	b
該当項目が	80%未満	c
該当項目が	2項目以下	c

考 査 項 目 別 運 用 表

検査員（出来ばえ-21）

（別表　　）

考査項目	細別	判断例	a	b	c	d
3．出来形及び出来ばえ			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
	Ⅲ出来ばえ					

対象工種	◆評価対象項目
31　営繕（電気・電気通信設備及び暖冷房衛生・機械設備）工事	□ きめ細やかな施工がなされている。 □ 関連工事（工種）又は既存部分との調整がなされ、全体に調和が良い仕上がりである。 □ 機器又はシステムとして、運転状態、性能が優れている。 □ 環境負荷低減への対策が優れている。 □ 運転及び保守管理への対応が優れている。 □ その他理由 □　　　理由
32　小規模工事	□ 関係構造物等との取り合いが設計図書を満足するよう施工されている。 □ 仕上げがよい □ 施工管理記録等から不可視部分の出来映えの良さが伺える。 □ 施工対象物の通りが良い。 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 □ 全体的な美観がよい。 □ クラック、隙間、がたつき等がない。 □ 総合的な機能がよい。 □ その他理由

●判断基準

土木系

※　対象項目は3個以上とする。

対象項目数	該当評価項目数 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	d	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a
9	d	d	d	d	d	d	c	b	a	a	
8	d	d	d	d	d	c	b	a	a		
7	d	d	d	d	c	b	a	a			
6	d	d	d	c	b	a	a				
5	d	d	c	b	a	a					
4	d	c	b	a	a						
3	c	b	a	a							

営繕系

該当項目が	90%以上	a
該当項目が	80%以上90%未満	b
該当項目が	80%未満	c
該当項目が	2項目以下	c